

Neues in Nara

Nr. 37

2012年1月21日



Japanisch-Deutsche Gesellschaft Nara (JDG-Nara)

奈良日独協会(会長 河野良文) 奈良市大安寺 2-18-1 大安寺内

Tel/0742-61-6312, Fax/0742-61-0473

<http://www.daijanji.or/jdgn/index.html>

事務局:加納(Tel/Fax 0742-22-3636) 林(hayashi@mercury.sannet.ne.jp)

“これは会員相互のコミュニケーションツールです。皆様からの情報は事務局へ”

行事予定

1. バイエルン青少年交流プログラム

バイエルン日独協会との交流協定に基づき、4月1日(日)から14日(土)まで、青少年9名(引率者:会長夫妻)を受け入れ奈良でホームステイをしながら体験学習を行います。

ホームステイの受入のお願い: 一般のアンケートにて3名の方より協力回答を頂きました。国際交流財団NIFSにも協力を依頼しますが、出来るだけ多くの会員に協力をお願いしたく更に受入可能な方は事務局まで電話又はメールにて1月末までご連絡をお願いします。

プログラム: 会員との交流会、天理大・奈良女子大学生との交流会、藍染や拓本の体験、山の辺の道ハイキング、市内観光、京都観光などを検討しています。詳細は追ってお知らせします。

会員だより

中祢勝美さん(天理大学 国際学部 地域文化学科 ヨーロッパ・アフリカ研究コース)より投稿いただきました。

「一昨年、お仲間に加えて頂いた中祢勝美です。姓の「祢」は、「弥」や「称」とよく間違えられるのですが、平仮名の「ね」、片仮名の「ネ」の元となった字です。1997年から天理大学で、ドイツ語やドイツ社会に関する授業を担当しています。日独友好150周年の菩提樹の件では、大変お世話になりました。皆様のご厚意に心からお礼申し上げます。



金沢と札幌の大学でドイツ文学を専攻し、その間、2度ドイツに留学する機会に恵まれました。最初の留学先はレーゲンスブルク。23歳でした。初めて本州を離れ、初めて飛行機に乗り、ミュンヘン駅に着いたのが午後7時前。レーゲンスブルクに向かう列車に乗った時点で、その日の宿もまだ決まっていませんでした。私は向いの席の中年男性に宿泊先のリストを見せ、どこがいいか尋ねました。レーゲンスブルク駅に着いたのは夜9時。足に障害のあった男性は、タクシーに私を乗せると、リストの中で一番安いランツフーター・ホーフという宿の前で降りました。寡黙な男性はお礼の言葉もろくに聞かずにタクシーに乗って消え、残された私は、一階がレストラン兼居酒屋になっている旅館のドアを恐る恐る開けました。すべての視線が私を刺し、空気が凍りました。ジョッキにビールを注ぐ店のおばちゃん、常連席でスカートに興じる陽気なおじさん連中、レバーケーゼやクネーデル、そして強烈なバイエリッシュの会話。これらが私にとって記念すべきドイツでの「初夜」となりました。

行事報告

1. 2011クリスマス会(12月3日(土) 花小路、38名参加)

開会に先立ち、藤澤一夫さんよりスライドで日独フォトコンテスト入選写真紹介と共にドイツの環境政策についての話題提供を頂いた。パーティーでは=左上写真、平尾英治さんの声量のあるドイツ語での 荒城の月、田中耕太郎さんによる バッハのリコーダー演奏、天理大学に学ぶケルン大学交換留学生2名も加わり、吉田はるみさんのピアノ伴奏での Der Tannenbaum, An die Freude などの全員合唱と賑やかなクリスマス会となり、会員同士の情報交換にも良い機会となった。



2. 近畿地区日独協会新年会(1月7日(土) 朝日スーパードライ 梅田、44名参加)

当協会から2名(足立、林)が参加。次回は多くの参加者を!

3. 関西若手会員交流会

昨年12月24日、香川・神戸・奈良の若手会員で、関西のドイツを楽しむ「交流会」を開催しました。昨年東京で開かれた「若手会員の集い」に参加した4名が中心となり、当日は計8名(香川3、神戸3、奈良2)で、奈良からは私のほかに橋本学さんが参加して下さいました。行き先は、まず大津のドイツレストラン「ヴェルツブルク」。内装も料理も本場そのものの雰囲気の中でランチを頂きました。また、統括マネージャーであり大津日独協会の専務理事でもいらっしゃる芦田さんともご挨拶させて頂き、レストランができた経緯などもお話していただきました。そしてその後は京都のドイツパン屋「ペルケオ」、梅田のクリスマスマーケットと広範囲ながらもドイツを楽しむツアーとなりました。ひとつの協会だと若手の会員が少なく活動が難しいという問題もありますが、今回のように合同でのイベントなどで気軽に集まることにより、また新たな活動に繋がればと思っています。また次回、第二回の開催が実現しましたら、ぜひご参加頂ければと思います。(巽みち子さんより報告)

